



第 1312 回例会報告

平成25年4月11日(木) 晴
【4月は識字率向上月間】

会長挨拶

会長 蒲地整志

良心

私が大学一年生の時、法学の授業で教授が「法にとって一番大切なものは良心である」と言われました。

この言葉は今でも鮮明に私の頭の中に残っています。

昨今の法曹界はこの「良心」が最も欠けているように思います。

裁判に勝つ負けるが一番重要で、良心は何処かに置き忘れられています。

今も係争中の裁判でも冤罪と思われる案件がたくさんあります。

ある法学者は「グレーの容疑者を100人逃しても、一人の冤罪者もつくってはいけない」と言っています。

先週も言いましたが「日本人の心」とか「良心」は何処にいったのでしょうか？

又、「真実とは？」に対する意識の低さはいかかなのでしょうか？

ロータリークラブの、「言行はこれに照らしてから」の「四つのテスト」はやはり素晴らしいと思います。

四つのテストをいつも心に行動していきたいと思っています。

◇幹事報告◇

【報告事項】

- 1) 地区資金申請は、「ブナの木の森」鹿の食害防止ネット購入にいたしました。
- 2) 「セブの子供に音楽教育を」は、グローバル資金の申請といたします。

■出席報告

会員数	35名
出席対象	33名
出席者数	26名
出席率	78.8%
前回修正	84.8%

■ニコニコBOX

23名	27,000円
累計	1,012,000円
目標額	130万円
達成率	77.8%

■今週のことば

境内の桜が満開です。今朝の雪でお花見例会までもつよう調整しています。

山門の中の紅しだれ桜は例会に満開になる予定です。お楽しみに

小林聖仁

■次回のプログラム

4月25日

ミンダナオ支援の今後について

国際奉仕委員会

■今週のことば

4月6日11時2分 外孫の税所祐介(さいしゅゆうすけ)君が誕生しました
御子柴文夫

本日次期会長の方針を発表させていただきます
平山隆勇

小林聖仁



第 1312 回例会

次年度会長基本指針

会長エレクト 平山隆勇

今年度R Iテーマは“ロータリーを実践し みんなに豊かな人生を”です。R I会長のロンD.バートン氏はメッセージの中で「ロータリーを真に実践し、ロータリーの奉仕と価値観を日々生かす決意をすれば、自分がいかに素晴らしい影響をもたらすことができるか見えてくるでしょう」と述べられています。しかし、バートン氏がおっしゃるように、形だけの努力だけではなく、ロータリーを真に実践するという事は生易しいことではありません。世界或いは地域における問題を自分自身の責任として受け止め、それに基づいて行動し、人々の人生を豊かにできるよう最善の努力をすることが、私達自身の人生を豊かにすることにつながると考えたいと思います。また今年度は新補助金制度スタートの年度です。今まで実践してきた奉仕プロジェクトを見直し、発展あるいは更に磨きをかける年度でもあります。

一方、当クラブの現状を考えてみると、慢性的な会員減少により中堅となる会員の層が薄くなっています。言い換えると負担の大きいクラブの幹事をお願いできる会員が大変少なくなっているということです。これを解決するには、入会間もない新しい会員に早く幹事ができる実力を獲得していただくことは勿論ですが、新しいエネルギーを注入すること、即ち若い世代の会員に当クラブに入会していただくことが一番の特効薬だと思います。そのためには、若い世代と接触する機会の多い若い会員により構成される、会員増強特別委員会をつくる必要があります。

また、事務局機能を強化し、幹事の仕事量の軽減を図り、仕事と両立できる方法を考えたいと考えています。元気のあるクラブを目指し、希望ある未来(あす)につなげたいと思います。

そう、今年度のキーワードは「つなぐ」です。手に手をつなぎ効果的に奉仕活動を行い、親睦を深めて心と心をつなぐ。ベテランの会員が若い会員にロータリアンとしての経験や知識を伝えることで世代間がつなげ、全員が一丸となって三十周年につなげる年になるよう願っております。

一年間、私として精一杯努力する所存ですので、絶大なるご支援をお願い申し上げます。

基本方針

1. クラブの強化による、より充実した奉仕プロジェクトへの挑戦
2. 会員全員が発言する活発な例会の実施(夜間例会を含む)
3. 30周年に向けて夢を語り、世代を超えてつながり合おう

重点事業

1. 五大奉仕事業の推進
2. 会員増強 純増2名以上
3. 新補助金制度による奉仕プロジェクトの実施
4. 東日本大震災への支援継続
5. R I 会長賞への挑戦
6. 30周年にむけての準備

